

# 読書のすゝめ

その12

H 27

6 / 29



**芥川賞・直木賞**  
日本文学振興会は19日、「第153回芥川賞・直木賞」（平成27年上半期）の候補12作を発表しました。お笑い芸人による純文学作品として今期、大きな話題を集めたピース・又吉直樹の『火花』が芥川賞にノミネートされています。選考会は7月16日に東京・築地「新喜楽」で行われますが、本校図書館にも『火花』、『東京帝大叡古教授』、『若冲』、『ナイルパーチの女子会』が新着図書コーナーに配架してありますので、ぜひ一読して予想してみませんか？

候補作は以下のとおり（作者名⇨敬称略・五十音順）

## ■「第153回芥川龍之介賞」

- 内村薫風『まこと』（新潮3月号）
- 島本理生『夏の裁断』（文学界6月号）
- 高橋弘希『朝顔の日』（新潮6月号）
- 滝口悠生『ジミ・ヘンドリクス・エクスペリエンス』（新潮5月号）
- 羽田圭介『スクラップ・アンド・ビルド』（文学界3月号）
- 又吉直樹『火花』（文学界2月号）

## ■「第153回直木三十五賞」

- 門井慶喜『東京帝大叡古教授』（小学館）
- 澤田瞳子『若冲』（文藝春秋）
- 西川美和『永い言い訳』（文藝春秋）
- 馳星周『アンタツチャブル』（毎日新聞出版）
- 東山彰良『流』（講談社）
- 柚木麻子『ナイルパーチの女子会』（文藝春秋）



### 『ナイルパーチの女子会』 柚木麻子（文藝春秋）

表紙のイラストに描かれている可憐な女性達のさぞや楽しい女子会の物語かと思いきや蓋を開けたらかなりハードな女性たちが描かれ、読んでいる間中、息苦しくなる程、濃い内容です。ナイルパーチとは、「スズキ目アカメ科アカメ属の淡水魚で凶暴性も持つ要注意外来生物」とのこと。その「ナイルパーチ」の女子会とあれば一筋縄では行かない物語だと想像できます。人の女子会とあれば一筋縄では行かない物語だと想像できます。人との距離の取り方が上手な人と、うまくない人。たしかにいますよね。読後感は爽快、というわけにはいきませんが、極端な二人の主人公のキャラクターの中に、自分と同じ部分があることも認めざるを得ず、いろいろと考えさせられた一冊です。



### 『若冲』 澤田瞳子（文藝春秋）

今年、生誕300年を迎え、益々注目される画人・伊藤若冲。緻密すぎる構図や大胆な題材、新たな手法で周囲を圧倒した天才は、いったい何ゆえにあれほど鮮麗で、奇抜な構図の作品を世に送り出したのか？注目の作者・澤田瞳子が、彼のバックグラウンドを残された作品と史実から丁寧に読み解いています。底知れぬ悩みと姿を見せぬ永遠の好敵手——当時の京の都の様子や、池大雅、円山応挙、与謝蕪村、谷文晁、市川君圭ら同時代に活躍した画師たちの生き様も交えつつ、次々に作品を生み出していった唯一無二の画師の生涯を徹底して描いた芸術小説。時代小説なのに、不思議なほど違和感なく世界に入っている感じがします。

### 『東京帝大叡古教授』 門井慶喜（小学館）

主人公・宇野辺叡古（らのべえーこ）は、東京帝国大学法科大学の教授である。大著『日本政治史之研究』で知られる彼は、法律・政治などの社会科学にとどまらず、語学・文学・史学など人文科学にも通じる”知の巨人”である。その知の巨人が、連続殺人事件に遭遇する。時代は明治。殺されたのは帝大の教授たち。事件の背景には、生まれたばかりの近代国家「日本」が抱えた悩ましい政治の火種があった。実在した人物が多数出ており、日本史好きな人は、次にどんな人物・事件が出てくるのか楽しく読み進めることができます。

